

ID

予定日
様

大腸CT検査 問診・同意書

今回、大腸CT検査(CT コロノグラフィー)を受けていただくことになりました。
大腸CT検査は内視鏡を用いることなく、CTにて撮影した大腸の「形状」及び「内腔(内部の状況)」を解析した
画像を用いて大腸の腫瘍性病変を発見する検査法です。

大腸CTの偶発症は、10000人に4人程度で大腸穿孔を起こす可能性があります。
保存的治療で改善し、死亡事例など重篤な偶発症の報告はありません。
また、腸管拡張による血管迷走神経反射(気分不良、吐き気、血圧低下など)が10000人に
8人程度の割合で発生しますが、多くは30分程度で回復します。

問診事項 下記に該当する場合は、本検査ができません

- 急性腹症、開腹術または大腸切除術を受けて3ヶ月以内
- 全結腸切除・大腸ポリペクトミーを受けて10日以内
- 何らかのヘルニア・炎症性腸疾患の急性期(虚血性腸炎や、感染性腸炎、憩室炎も含む)
- 下血(目視できるものは原則禁忌:内視鏡へ)
- 放射線を使用した検査のため、妊娠中または妊娠の可能性のある方はできません

◆ ブスコパン投与の可否 可 否

◆ グルカゴン投与の可否 可 否

* 腸管拡張が難しい場合使用することがあります

1. 大腸CT検査の精度

6mm以上の隆起型腫瘍はほぼ100%検出可能ですが、前処置に大きく左右され、また、平坦型の腫瘍や5mm以下の小さなポリープの検出能は内視鏡検査と比べ劣ります

2. 検査方法

肛門から大腸内に空気(炭酸ガス)を注入するためのチューブを挿入します。大腸内をよく観察するため、大腸を十分に膨らませた状態でCT撮影を行います。仰向け・うつ伏せの2体位です。検査中は肛門を軽く閉めておいて下さい。検査は20分程度で終了しますが、前処置や腸の状態によって前後することがあります。
大腸内に空気を注入する為、検査後まれに、お腹が張ったような軽い痛みがある場合があります。検査後はおならを我慢せず積極的に出して下さい。

3. 注意事項

- 検査前後で日常生活や仕事に制限はありませんが、下剤服用により下痢になることがあります。
- 大腸CT検査では、組織検査(生検)やポリープの治療はできません。
- お腹の不快感や軽い痛みが続くようであれば、しばらく休んでからご帰宅して頂きます
- 高度狭窄がある場合には下剤の服用やガス注入により腸穿孔の可能性もあります。

上記、大腸CT検査の説明を受け

理解しましたので同意します

同意しません

年 月 日 ご署名 続柄()

依頼医師

説明者

検査施行者確認

事業所名